

ABIC 国際社会貢献センター Information Letter

No.31 2011年6月

第31回理事会・第11回通常総会を開催	2
2010年度（平成22年度）事業報告	2
正会員（個人）の入会	4
2011年度（平成23年度）事業計画（案）	5
2010年度（平成22年度）決算及び2011年度（平成23年度）予算	6
役員等	6
<hr/>	
政府機関関連への協力 中米コスタリカの水と人	7
教育 雲雀丘学園中学校での初めての国際理解学習（3年生対象）	8
留学生支援 最近の留学生支援活動の広がりー育児・健康相談、 入園・入学支援サポートを中心に	9
東京国際交流館 春の新入館者歓迎バザー	10
<hr/>	
ボランティア活動 地元で日本語指導と里山の手入れ	11
<hr/>	
会員入会のお願い	12
法人・個人正会員/賛助会員/活動会員一覧	12
東日本大震災被災地支援活動への協力お願い	12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター（ABIC）
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル6階（社）日本貿易会内
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 4階403号室
Tel & Fax : 06-4395-1188
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

第31回理事会・第11回通常総会を開催

5月31日、日本貿易会会議室において第31回理事会並びに第11回通常総会がそれぞれ開催されました。議題として①2010年度事業報告及び収支決算、②2011年度事業計画及び収支予算が審議され、いずれも原案通り承認されました。



2010年度（平成22年度）事業報告

活動分野	主要事業	主な活動状況 <活動実績:H22年度 延べ人数 1,428名> <活動会員数: 2,108名 (H21年度末比98名増加) >	活動実績 (延べ人数)		
			H22年度	H21年度	H12~22 年度累計
政府機関 関連	ODA関連等 への人材推 薦・紹介、 政府関係諸 事業の受託、 本邦中小企 業支援関連 への人材推 薦・紹介、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣 等	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動: JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省任期付き職員（在外公館）・外務省領事シニアボランティアで14カ国、合計16名が常駐または中長期出張ベースで活動（ベトナム、インドネシア、東ティモール、チェンジア、インド、パキスタン、コスタリカ、エルサルバドル、パナマ、コロンビア、アルゼンチン、メキシコ、米国、豪州へ各機関からの派遣）。 国内での活動: JETROの輸出有望商品発掘事業、中小企業基盤整備機構の中小企業支援事業アドバイザー・販路開拓ナビゲーター、及びAOTSでの研修講師、JODCでの講師派遣など協力を継続。文部科学省拠出金支出案件（国際移住機関/IOMが執行）「定住外国人の子どもの就学支援事業（虹の架け橋教室/常総、下妻）」はH21年度に受託開始しH23年度まで3か年に亘り継続活動の見込みとなった。 上記諸機関並びに経済産業省、近畿経済産業局、関東経済産業局、中部経済産業局等とのコンタクトを継続・強化し、公募案件への対応であったが、推薦・紹介・受託による活動を行い、H22年度は実績はなかったが、H23年度として2名のアドバイザー採用が決定した。 	102	102	797
NGO/NPO 等 非政府機関	NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力	<ul style="list-style-type: none"> NPO国連世界食料計画WFP協会、国連工業開発機構/東京事務所等にアドバイザーとして、またNPO産業技術活用センター（日本経団連のメンター事業を協同推進）にメンター登録して適宜支援活動を継続。 	11	9	135
地方自治体・ 中小企業支 援	地方自治体 の推進する 中小企業育 成支援（販路 開拓、海外ビ ジネス促進 等）や農産 品輸出促進・ 企業誘致等 への協力、 及び中小企 業への直接 支援・協力 （海外進出・ 経営支援等）	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県:5年目及び4年目2契約、山口県/産業振興財団:4年目、山梨県/産業支援機構:4年目、大分県及び福岡県3年目、ジェトロ千葉貿易相談センター:1年目）との取組みが順調に推移した。しかしながら大分県についてはH23年度は取り止め、山口県も規模が縮小される見通し。 継続支援・協力先の地方自治体関係で、東京都ビジネスナビゲーター（8年目）、大阪府アジアデスク（4年目）、大阪府/東大阪市共同のクリエーションコア（8年目）の他、東京都商工労働部・外国人対応相談員、宮城県/埼玉県/神奈川県/三重県/兵庫県/島根県/愛媛県/福岡県の企業誘致や販路開拓アドバイザー等で活動。新規として静岡県でのビジネス相談会、富山県での販路開拓、長野県企業誘致アドバイザー、北陸AJECとの取組による通訳派遣など活動自治体の幅は広がっている。但し、千葉県産業振興センター案件と同県商工労働部との取組は千葉ジェトロに一部移管となり、活動機会は減少した。 H22年度もこれまで活動実績のない地方自治体へのコンタクトを改めて行い各所の東京事務所訪問を行ったが、早速新規案件に繋がり、また来年度事業についての具体的な相談が寄せられ始めてきた。また、口コミ、ホームページ、会員経由等により、中小企業からの直接の支援要請も増加、活動機会が広がっている。 	526	575	2,426
外国企業支援	外国企業の 日本進出・ 販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> ジェトロの対日貿易投資部と「対日投資関心企業に対する業種別アドバイザーの手配」契約を受託、面談・書面によるコンサルテーションを実施した。また昨年度に引き続き、スペイン語圏在京大使館からのバイリンガル・ビジネス・アドバイザーの活動を受注。在京海外大使館からの依頼にも対応している。 	93	56	333

活動分野	主要事業	主な活動状況 <活動実績:H22年度 延べ人数 1,428名> <活動会員数: 2,108名 (H21年度末比98名増加)>	活動実績 (延べ人数)		
			H22年度	H21年度	H12~22 年度累計
教育	大学及び 社会人講座 等	<ul style="list-style-type: none"> 37大学・組織へ講師派遣。年間講座数75、コマ数 1,464を実施。アジア経済研究所開発スクールでの新規講座など、講座数は14件増やせたが、講師数は同じ講師が複数の講座を受け持つケースが増加した為に昨年度比減少となった。引続き、講師の入替えや魅力ある講座の組立に注力した。 新規講座として東海大学、聖学院大学など、また新規の英語での講座として千葉大学大学院、追手門学院大学、一橋大学（H22年度短期留学生プログラム）を受注した。金沢大学を中心とした4大学グループが行う「eラーニング教員免許更新講習」運営に引続き協力した。 立命館アジアパシフィック大学（H18年1月に包括協定締結）との関係強化が進み、ABICとして引続き多くの講座を提供。H19年度下半期開始のAPU受託の経産省/文科省案件「アジア人材育成プロジェクト」へも、引続き講座運営・講師派遣で協力した。H23年度は大学側事情により講座は減少となる見込み。 文科省「ニーズ対応型中東研究」（一橋大中心。H18~22年度）に引続き全面的に協力、1月18日に発表会を開催した。（会員を中心に61名の出席） 	317	331	2,665
	国際理解 教育支援 等	<ul style="list-style-type: none"> 小中高校生や教職員への講義・講演会へ引続き注力した。ゆとり教育の後退は懸念材料ながら、関係先増が図れた。 関西学院大学（H15年2月に連携協力協定締結）並びに青山学院大学との協力関係を進め、引続き海外からの留学高校生と日本の高校生との「高校生国際交流の集い」（一泊二日）を東西で実施した。また、H18年に関学との協働で始めて、H19年度から正課に昇格した高大連携授業の側面支援も引き続き行った。活動実績面では、それぞれの行事の事前講習が、参加高校の日程やり繰りの関係で実施出来ず仕舞いとなったが、H23年度は実施予定。 多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導、新宿区教育委員会に協力しての日本語指導を引続き実施して評価を得た。 	76	68	638
在日留学生 支援	在日留学生 支援・交流	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館において、引続き日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を送ると共に、バザー、フェスティバル等の催しにも協力。 H18年度から開始した国際交流館在住の留学生家族支援（健康診断、子女入園・入学手続き等）が増加し、大変好評を得ている。 	179	128	924
国際イベント 等	国際イベント 等への協力	<ul style="list-style-type: none"> H22年度は国際イベントが実施されず、実績はゼロであった。 	0	26	129
その他活動・ 一般求人等	その他活動・ 一般求人等	<ul style="list-style-type: none"> 会員会社の社会貢献事業への支援を継続（三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」①新規奨学金供与プロジェクト、②学校支援事業フォローアップ等）。 教育及び留学生関係で、帝京大学/帝京平成大学/LEC大学教授・講師、東京外国語大学職員、東京学芸大学附属中等国際教育学校職員、科学技術国際交流センターつくば館長、EU Institute in Japan事務局長、幕張インターナショナルスクール事務長として継続活動し、学生情報センターの紹介による政策研究大学院大学国際交流会館管理業務者も継続となった。その他、在ホーチミンのホテル支配人、タイ国ブロードバンド会社の日本支社アドバイザー等も継続している。 ABIC日本語教師養成講座（第8期及び第9期）を継続した。内2名は国際交流館での日本語広場講師として、また新宿区の日本語講師として活躍中。 日本貿易会内の業務効率化支援として、新聞クリッピングへの協力を継続。 	124	135	549
合 計			1,428	1,430	8,596

活動会員 関係	活動会員 増強	<ul style="list-style-type: none"> ABICの入会案内チラシを更新し（裏面にABIC活動紹介・実績を掲載）、引続き社会貢献・ABIC委員会委員を通じて、各社OB/OGへの配布文書や退職時の一連書類に同封願った。また、活動会員へ電子データで配布して、知人への紹介を依頼した。グループ企業や銀行グループ企業の窓口事務局への案内も行った。
	活動会員 スキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も大学・EC等 講座講師勉強会を実施した（東京9月10日 31名参加）。また、英語による講義の需要増大への対応として英語授業法勉強会を今年度も東阪で実施（東京8月20日21名、大阪9月24日16名。共に立命館大学准教授を招聘）。 H18年10月から開講した日本語教師養成講座を継続し、第8期6名、第9期10名が修了証を手にした。第8期までの卒業生85名のうち約半数が、ボランティア主体で日本語講師を務めている。 H18年度から開始のIT研修（NPOオクトマン・シルバー・パソコン倶楽部が協力）を継続中。
	ABIC設立 10周年記念 講演会	<ul style="list-style-type: none"> ABIC設立10周年を記念してH22年5月24日に日本貿易会・ABIC主催、日本経済新聞クロスメディア営業局共催による記念講演会を、日本総合研究所会長兼三井物産戦略研究所会長、またABICの個人正会員でもある寺島実郎氏を講師にお迎えして、日経カンファレンスルームにて開催した（会員を中心に270名出席）。

<p>広報活動等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動会員、関係先向けの『ABIC Information Letter』を発行（年3回 7/11/3月 No.28/No.29/No.30）。 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載し、ABIC活動のPR、紹介に努めた。 ABICパンフレットの邦文版を改定した（H22年10月）。ホームページを順次更新した。 国際協力機構（JICA）の国際人材協力センター（PARTNER）のホームページ上の国際協力参考リンク集にABICのホームページをリンク頂き、ABICの活動を一般の方にも広める事とした。 東京都中小企業振興公社主催の海外販路開拓セミナーの参加者にABICのパンフレットを配布すると同時に、同公社国際化支援室に常備頂く事とした。 新聞報道:①日経新聞（H22年4月23日夕刊）に「日系人向け教室 増す役割」としてABICの日系ブラジル人子弟への日本語教育・社会生活教育への取組み紹介。②大分合同新聞（H22年5月15日）に大分県ベンチャー販路開拓支援事業への取組み紹介。日経新聞（H22年6月21日）に10周年記念講演会の広告記事を掲載し、ABIC活動の紹介を行った。 NPO法人産業技術活用センターのメンター研修会において、事務局及びメンターの方（18名）にABIC設立から現在に至る活動の経緯説明を行った。 今年度も、東京国際交流館主催の春・秋の新入館者歓迎会にてバザーを実施。また、夏の「交流館フェスティバル 2010」において、ABICが指導している華道、書道コーナーを設けて来場者に対応した。バザーについては、ABIC活動会員並びに社会貢献・ABIC委員会経由法人正会員各社役員から多くの品物の寄贈を頂戴してほぼ完売となり、売上金の殆どを、夏祭りの浴衣や交流館の行事に役立てて貰うべく寄贈した。
<p>事務局関係</p>	<p>事務局体制</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーター、プロジェクトスタッフの見直しを実施し、昨年度比1名増の23名とした（1名は関西デスクの大学講座プロジェクトスタッフとして任用）。なお、在日ブラジル人子女教育支援の特定プロジェクトスタッフ及びパートタイマーとして、複数名任用。 <p>経理・総務: 扇 文子、黒木裕美、道家千波（8月より復職）、（橋本政彦）</p> <p>地方自治体・中小企業支援グループ: 高廣次郎、佐藤 徹、野津 浩 [参与/プロジェクトスタッフ=新規案件開拓]</p> <p>外国企業支援グループ: 西山勝昭</p> <p>大学・EC講座グループ: 増田政靖、森 和重、谷川達夫、猪狩真弓、布施克彦、恩田英治</p> <p>小中高国際理解教育グループ: 角井信行、川俣二郎</p> <p>産学協同プロジェクトチーム: (角井信行、川俣二郎、大西稔男、橋 弘志)</p> <p>留学生支援グループ: 田中武夫、鍛形勲</p> <p>アジアグループ/中国デスク: <空席></p> <p>インドネシア・インド他デスク: 橋本政彦</p> <p>メコンデスク: 篠崎 尚 [プロジェクトスタッフ]</p> <p>中南米デスク: (森 和重)</p> <p>在日ブラジル人子女教育支援（三井物産案件）チーム: (森 和重)、畑 宏幸、高岡淳二、星野和俊、藤原真理、松本一子</p> <p>「虹の架け橋教室」推進チーム: (森 和重)、栗田政彦、三田浩二、千葉明子、(藤原真理)、他現場担当コーディネーター B/パートタイマー</p> <p>関西デスク: 藤原照明、大西稔男、橋 弘志、赤田 堅 [プロジェクトスタッフ]、吉富 [プロジェクトスタッフ]</p>
<p>事務局運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事務局員1名休職に際し、経理関係常駐事務局員として派遣会社とスタッフ派遣の契約を行った。 全省庁統一資格の更新など諸契約、規則・規程の整備は適宜進めた。職業紹介責任者講習を受講した。

<p>事務局関係</p>	<p>正会員</p>	<p>法人</p> <ul style="list-style-type: none"> 16社、1団体（H21年度同様）:伊藤忠商事、稲畑産業、岩谷産業、協同木材貿易、興和、JFE商事ホールディングス、住友商事、双日、蝶理、豊田通商、長瀬産業、阪和興業、日立ハイテクノロジーズ、丸紅、三井物産、三菱商事、日本貿易会（社名50音順）
		<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> 9名（H21年度末比2名増）:池上久雄、寺島寛郎、小島順彦、宮原賢次、吉田靖男、岡素之、佐々木幹夫、勝俣宣夫、小林栄三（入会順）
	<p>正会員</p>	<p>法人</p> <ul style="list-style-type: none"> 3社（H21年度同様）:（有）イーコマース研究所、(株)エックス・エヌ、キーリサーチネット(株)（五十音順。いずれも活動会員が所有する会社）
		<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> 435名（H21年度末比 30名増）…活動実績のある活動会員への勧誘をH21年度同様に実施。
<p>活動会員</p> <ul style="list-style-type: none"> 2,108名（H21年度末比 98名増） 		

年度毎活動実績	延べ人数
2000年度（H12）	16
2001年度（H13）	213
2002年度（H14）	458
2003年度（H15）	586
2004年度（H16）	562
2005年度（H17）	694
2006年度（H18）	767
2007年度（H19）	1,132
2008年度（H20）	1,307
2009年度（H21）	1,430
2010年度（H22）	1,428

正会員（個人）の入会（敬称略）

勝俣 宣夫（丸紅(株) 取締役会長） 2010年 6月入会
 小林 栄三（伊藤忠商事(株) 代表取締役会長） 2010年10月入会

2011年度（平成23年度）事業計画（案）

活動分野	主要事業	重点活動内容	延べ人数		
			H23年度 目標	H22年度 実績	
政府機関 関連	ODA関連の 人材推薦、 政府機関諸 事業の受託、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動:JICA長期・短期専門家・シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省領事シニアボランティア等の確保。 国内での活動:JETRO輸出有望発掘案件支援・非常勤嘱託職員・貿易相談員、中小企業基盤整備機構、及びAOTS、JODC等での研修講師派遣の受託増。文部科学省（国際移住機関）事業「虹の架け橋教室」の継続受注（済み）と円滑な運営。 経済産業省、JETRO、JICA、外務省、文部科学省、文化庁、観光庁、農林水産省、JODC、AOTS等とのコンタクト維持・強化。 	100	102	
NGO/NPO 等 非政府機関	NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力	<ul style="list-style-type: none"> NGO、他NPO、国際機関とのコンタクト強化。 	10	11	
地方自治体・ 中小企業支 援	自治体の国 際化・中小 企業の販売 促進活動・ 海外進出・ 経営支援・ 協力中小企 業への直接 支援	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県5年目、山口県/産業振興財団4年目、山梨県/産業支援機構4年目、福岡県/3年目）との一層の関係強化。新規の年間業務委託契約の確保。 継続支援・協力先の地方自治体（東京都ビジネスナビゲーター9年目・海外販路ナビゲーター2年目、大阪府/東大阪市共同のクリエーションコア9年目、企業誘致アドバイザー＝宮城県7年目、兵庫県6年目、三重県・和歌山県5年目、島根県/愛媛県4年目、長野県2年目、スポット支援＝佐賀など）との一層の関係強化。他地方自治体への積極的なPR推進の継続と受託案件の増大。 中小企業からの直接支援要請に即応。 	450	526	
外国企業支援	外国企業の 日本進出・ 販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> 国際見本市関係業者とのコンタクト強化・拡大。在日大使館、外国機関駐日オフィスとのコンタクト強化・拡大。 在日海外企業との連携強化・拡大 	50	93	
教育	大学及び 社会人講 座	<ul style="list-style-type: none"> 実施大学・組織及びコマ数の維持、講師層の拡大（含、英語による講座拡大）。 提案型講座の拡大。 H18年1月に包括協定締結の立命館APUとの一層の関係強化（新規講座開拓、留学生勧誘協力等）。 H15年12月に連携協力協定締結の関西学院大学との各種協力関係の維持・拡大（講座維持、国際理解教育協力等）。 H19年10月に包括提携協定締結の桃山学院大学との関係強化（講座増、中小企業国際化・人材育成支援、提携校来日研修ミッション受入れ支援等）。 	300	317	
	国際理解 教育支援 等	<ul style="list-style-type: none"> 新規の小中高等での講義・講演先の開拓。自治体教育委員会並びに日本経済教育センターとの連携強化 産学共同プロジェクトとして、関西学院大学との協力してH19年度から実施している「高校生国際交流の集い」を継続して企画・実施。首都圏は今年度は開催中止 多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導の継続支援。新宿区教育委員会「日本語指導支援（外国にルーツを持つ児童・生徒向け日本語指導）」支援の継続。 	100	76	
在日留学生 支援	在日留学生 支援	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館における、日本語広場、日本文化教室の一層の充実化及びバザー、フェスティバル等の催しへの引続いたの協力。 東京国際交流館在住の留学生家族支援（健康診断、通院、育児・健康・療養相談、転入手続き、入園・入学手続き等）の継続。 	180	179	
国際イベント 等	国際イベント 等への協力	<ul style="list-style-type: none"> 語学ボランティア活動の需要のあるイベントに適宜対応。 	10	0	
その他活動・ 一般求人等	その他活動・ 一般求人等	<ul style="list-style-type: none"> 大学対抗英語ディベート大会への支援・協力。 三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクトへの実務支援の継続及び住友商事のベトナムでの日本語教育案件教師等への人材紹介（更新継続）や、他法人正会員各社の実施する社会貢献活動への人材面での支援・協力。 帝京大学/LEC大学等への教授・講師、東京学芸大学付属中等国際教育学校事務員、科学技術交流センター事務局長、EU Institute in Japan事務局長、の契約更新継続。他、教育機関関係を主体とした新規の人材紹介。 （独）日本観光局主宰の「善意通訳」に登録各位の活動フォローと案内拡大。 ABIC日本語教師養成講座教師（継続）に加え、社会貢献に資する求人への積極的対応。日本貿易会の事務効率化支援・協力 	130	124	
合 計			(H22年度比 7%減)	1,330	1,428

活動会員関係	活動会員勧誘	● 社会貢献・ABIC委員会経由で各社OB/OGへの配布協力の継続要請、及びOB/OG会総会等でABIC紹介の機会を貰い勧誘を実施。また、活動会員へも引き続き知己勧誘を依頼。
	賛助会員勧誘	● 賛助会員数の増加に向け、活動が決まった会員への賛助会員入会依頼を継続（H22年度は30名増）。
	活動会員スキルアップ	● 日本語教師養成講座の第10期、第11期を継続開講（H18年10月から継続）。 ● 大学等講座講師勉強会（含、英語授業法）を継続実施。 ● IT研修を他NPOの協力を得て、継続実施（H19年2月から継続）
	懇親会	● H22年度は大阪のみであったが、H23年度は東京・大阪で実施予定。
法人会員関係	法人会員勧誘	● 東日本大震災の影響で不透明な状況下困難が予想されるが、引き続き法人会員増に向けて注力。

広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動会員、関係先向けの「ABIC Information Letter」を発行（年3回 6/11/3月） ● 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーやJFTC News（英文）でABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載。 ● ABICパンフレット適宜手直し（H23年10月頃）。英文パンフレットの改訂に着手。 ● 今年度も東京国際交流館が主催する春・秋のバザーや「交流館フェスティバル」にてABICのPRや活動紹介を行う。 ● ホームページの内容見直し・更新及び一層の充実。 ● 新聞、雑誌等へのABICの露出度拡大（マスコミへの積極的対応）。 	
事務局関係	事務局体制	<ul style="list-style-type: none"> ● コーディネーター並びにプロジェクトスタッフ同士の情報交換促進。 ● 経理・税務・総務担当の充実を図る。
	事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種データの整理等、業務改善への更なる注力。 ● 諸契約、規則・規程の一層の整備。

2010年度（平成22年度）決算及び 2011年度（平成23年度）予算

(単位:千円)

科目	2010年度 決算額	2011年度 予算額
I 収入の部		
(1) 会費収入	6,980	7,140
法人会費	(4,830)	(4,830)
個人会費	(2,150)	(2,310)
(2) 受託事業収入	121,658	120,414
日本貿易会	(23,520)	(23,520)
その他	(98,138)	(96,894)
(3) 寄付金収入	229	0
(4) 雑収入	50	550
収入合計	128,917	128,104
II 支出の部		
(1) 一般管理費	22,053	22,002
(2) 受託事業費	105,177	105,719
(3) 器具備品等	0	100
(4) 退給付引当預金	257	260
支出合計	127,487	128,081
収支差額	1,430	23
前期繰越金	27,126	28,556
次期繰越金	28,556	28,579

役員等

(敬称略・就任順)

会長	榎田 松瑩	(社)日本貿易会 三井物産(株)	会長 取締役会長	
名誉会長	勝俣 宣夫	前当センター会長、前日本貿易会会長 丸紅(株)	取締役会長	
副会長	加藤 進	住友商事(株)	代表取締役社長	
	加瀬 豊	双日(株)	代表取締役社長	
	清水 順三	豊田通商(株)	代表取締役社長	
	朝田 照男	丸紅(株)	代表取締役社長	
	岡藤 正広	伊藤忠商事(株)	代表取締役社長	
	小林 健	三菱商事(株)	代表取締役社長	
理事長	市村 泰男	(社)日本貿易会	常務理事	
常務理事	伊地知 紀仁	(社)日本貿易会	社会貢献グループ部長	
理事	藤山 知彦	三菱商事(株)	執行役員 コーポレート担当役員補佐(特命担当)	
	松井 勇巳	(社)日本貿易会	企画グループ部長	
	三輪 裕範	伊藤忠商事(株)	伊藤忠経済研究所所長	
	神子 浩二	双日(株)	広報部長	
	青木 雄一	三井物産(株)	理事 環境・社会貢献部長	
	杉田 欣二	丸紅(株)	市場業務部 担当役員付部長	
	鈴木 秀樹	豊田通商(株)	人事部社会貢献センター長	
	武井 徹	住友商事(株)	環境・CSR部長	
	監事	天野 正義	(社)日本貿易会	専務理事
	顧問	池上 久雄	初代当センター理事長、元日本貿易会常務理事	
吉田 靖男		元当センター理事長、元日本貿易会常務理事		
三幣 利夫		前当センター理事長、前日本貿易会常務理事		
参与	宮内 雄史	初代センター常務理事、初代日本貿易会社会貢献グループ部長		
	野津 浩	元当センター常務理事、元日本貿易会社会貢献グループ部長		
	名鏡 敬治	前当センター常務理事、前日本貿易会社会貢献グループ部長		

政府機関関連への協力

中米コスタリカの水と人

しもかわ たけし
下川 健

(JICA シニア海外ボランティア コスタリカ / サンホセ市上下水道庁環境教育アドバイザー、元 佐伯市役所)

1. 事業実施に至る背景と具体的な活動

2010年の統計によると、コスタリカの人口はおよそ456万人で、総人口の約30%が首都圏で生計を営んでいる。現在下水処理場が整備されていない。したがって、首都圏の未処理の生活排水はすべて、域内を流れる4本の川を通して、本流のタルコレス川に流入し、太平洋岸へ注がれる。首都圏が上流に位置しているため、汚水は常時供給され続けることになる。このため、タルコレス川は、中米で最も汚染された川の1つという汚名を得ることになった。

対外的に環境立国として知られ、エコツーリズムなどの観光産業を推進する国にとって、汚水の問題は、国のイメージを傷つける要因になる。衛生上、健康上も悪い。コスタリカ政府は、「国家開発計画」において上下水道整備を重要課題と位置づけた。2006年にJICAとの間で円借款事業に調印、コスタリカ上下水道庁（以下AyA）を実施機関とする「サンホセ首都圏環境改善事業」がスタートした。同事業は、サンホセ首都圏における下水処理場の新設と、下水管網の整備に必要な資機材調達、及び土木工事をを行い、2015年から107万人、2025年以降165万人の汚水処理を目指す。

同時に、国で初の大規模下水処理施設建設になるため、住民に、事業内容について適切に情報を提供し、それに伴う事業効果を示して理解を得ることが極めて重要となってきた。2007年、JICA-AyAの「サンホセ首都圏環境改善事業」プロジェクト実施ユニットは、内部に環境グループ（以下UTA）を新たに設置、住民意識向上のための環境教育活動を開始した。

しかしながら、UTAに環境教育教材がなく、活動方法が未確立の状態であったため、JICAはAyAと「サンホセ首都圏環境改善のための環境意識向上プロジェクト」を立ち上げ技術協力を推進することとなった。私は、2009年11月からUTAで上記の意識向上プロジェクトの活動に携わっている。本プロジェクトの構成メンバー



ワークショップにて 筆者（中央）

は、日本人3名（短期専門家、現地コーディネーター、私）と現地スタッフ5名である。活動の全容はホームページ www.mejoramamientoambiental.com をご覧いただきたい。

2. コスタリカの生活とエピソードを少し

コスタリカ人は朝が早い。日が暮れるのが早いということがあるかもしれない。私の事務所は、午前7時45分に始まり、午後4時に終わる。午前7時に始まる事務所も珍しくない。午後5時半を過ぎる頃にはあたりは暗くなり始める。

また、コスタリカの生活を語る上で、フェリア（朝市）を抜くことはできないだろう。フェリアとは、道の両側に百を越す出店が出て、食料品から民芸品まで売っている。ジャガイモ1個から買える庶民の台所である。

3. 最後に

コスタリカ人に対して、他の中米諸国の人に比べて、とっつきにくい、暗いといった負のイメージを持つ人が多いようだ。私も同じような印象を持っていた、しかし…。東日本大震災の後、日本大使館主催で、大震災チャリティーイベントが行われた。JICAも1つのブースを担当した。溢れるほどの人が開場前から駆けつけてくれた。その数、1万人。多くの励ましの言葉ももらった。その中に、普段職場で話しかけられたことも無く、快く思っていなかった職員がいた。彼と奥さんに激励された。瞬間、以前の自分が恥ずかしく思えた。この日を境に、コスタリカ人に対する私のイメージは、変わった。



フェリア（朝市）の様子



東日本大震災チャリティーイベント

教育

雲雀丘学園中学校での初めての
国際理解学習（3年生対象）

橘 弘志 （小中高校国際理解教育担当コーディネーター、元 三井物産）

兵庫県宝塚市で中高一貫教育を行っている雲雀丘学園中学校より、新学期から3年生になる生徒を対象とする国際理解教育授業を初めての企画として行いたいので、ABICより講師を派遣してもらえるかとの相談が関西デスクに届いた。

早速、同校を訪問し、詳細を打ち合わせた結果、授業対象国としてBRICs 4カ国とすることになり、準備を開始した。その後、講師の都合により、対象国の一つをブラジルに替えてベトナムとすることとなった。3月14日の授業まで時間的余裕が少なかったものの、授業内容、授業に使う視聴覚機器の打合わせなども学校側と大変スムーズに行うことができた。

授業は、各講師が同時に4クラスで並行して行う形で行われた。担当教諭による授業対象国についての事前授業が行われていたこともあり、60分という限られた授業時間であったが、生徒は熱心に講師の話に耳を傾けてくれた。

同校にとって今回のような形式の国際理解教育は初めてのことであり、授業終了後、生徒からの感想文に加え、担当の教諭からも貴重なご意見を頂いた。これらを各講師にfeedbackし、講師からの感想をとりまとめた上で学校側に伝え、今回の授業に締めくくりとした。

中学生を対象とする授業では、授業時間が60分前後に



講義する松村会員（ベトナム担当）



西山教諭（中央）と
講師（左から安間会員、松村会員、小林会員、筆者）

限定されることが多く、講師にとっては授業内容を絞り込む工夫を求められると共に、生徒が理解しやすい表現や工夫も併せ必要となる。また、授業冒頭で、まず生徒の興味を引く、いわゆる「つかみ」の話し方も大事であるし、授業の途中でも生徒の表情をとらえながら授業を進めていくことになる。

今回の授業でも民俗衣装の実物を紹介したり、民謡を聞いてもらったり、紙幣、硬貨の実物を見せたり、写真集を回覧する等の工夫を行った。生徒からの感想文で共通する点は、対象各国を問わず、「今まで持っていたその国についての印象が、実際に生活をしてきた講師の話しを聞いて変わった」ということであった。その意味で今回の授業の目的を達成できたと思う。

（氏名五十音順、敬称略）

講師名	元勤務先	授業対象国
安間 順	伊藤忠商事	インド
小林 慶行	三井物産	中国
橘 弘志	三井物産	ロシア
松村 直治	日商岩井	ベトナム

留学生支援

最近の留学生支援活動の広がりー育児・健康相談、入園・入学支援サポートを中心に

留学生支援事業の拠点である東京国際交流館では、現在、週に18クラスの「日本語広場」と、週末の茶道、華道、書道、囲碁、将棋、空手クラスの「日本文化教室」の開催のほか、ABIC会員や支援企業の提供品による留学生支援バザーの定期開催など様々な支援活動を行っている。

また、5年前からボランティアチームを組成して、妊娠・出産・育児・健康相談・検診・通院・治療など、家族の健康管理や通園・通学手続きなどの支援が始まった。通常は交流館からの要請にもとづき、チームメンバーに参加を呼びかけ、都合のつくメンバーが対応するが、緊急性の高いものも多く、携帯電話を通じての24時間対応型の活動となっている。

支援件数は、5年前には6件だったが昨年は55件に、また参加したボランティア人数は5年前の22名から昨年は138名に増加した。本年1月以降の2～3の事例を、参加したメンバーの活動報告の一部をそのままに引用して以下にご紹介する。

<江東区保健所の専門スタッフ数名に参加いただいたの妊娠・育児・健康相談サポートの報告>

パキスタンの友人からの相談とカザフスタンの妊婦さんの相談の通訳を務めました。パキスタンの友人の方は誰にも話し出せなかったことが相談できたことで表情が明るくなったようでした。ただ、時間内に相談できなかったことが一件あるとのことと、こういったことを後日保健師の方に個別に相談の連絡をして良いものかどうか悩んでいます。

また、カザフスタンの妊婦さんは初めてのお子さんであること、日本語がまったくできないことで少しナーバスになっておられる様子でした。彼女の場合腎臓の疾患で高アルブミン血症があり妊娠前は抗生剤の投与をしてきた、いつになったら再開できるのか、という質問があり、それには答えられないままになっていて気になっています。ま



育児健康相談サポート

た妊娠中の定期健診の際に付き添いが必要かと思われるのですが、どうなのでしょう。(コーディネーター補足：相談会の後でも保健所チームリーダーの方に電話やメールで質問・相談してもいいように、話しておきます。また定期健診の通訳・付き添いについては管理センターを通じて依頼いただければ、我々で対応可能です)

<15回にわたる妊婦の通院サポートの後に赤ちゃん誕生を迎えた日の報告>

- * 土曜の午後1時ごろ、「～～さんは昨夜、破水、出血もあり、午前8時から陣痛促進剤を点滴しているが効果が少なく、午後2時ごろから帝王切開を予定している」との緊急電話を受け、急遽病院に駆けつけました。
- * その後、徐々に点滴の効果が表れ、陣痛室から分娩室へ移動しましたが、胎児の大きさに比べ～～さんの骨盤が狭いこと産道が固いことなどで、柔らかくする注射をしましたが、大きな効果がなく時間ばかりが経過。医師は「帝王切開」を提案、そのための準備もしましたが、～～さんはあくまで自然分娩を希望。
- * 医師や助産師の交代時間となり3名の医師と6名の助産師のもと吸引分娩でようやく無事出産。午後5時を過ぎていたと思います。後産の処置にも立会しました。
- * 3,500グラムの健康な男子でした。凶らずも分娩に立ち会って貴重な経験となりました。子供の健やかな成長を心から願っています。

<「日本語広場」の教え子から緊急応援要請を受けクリニックと病院に連れて行ったサポートの報告>

～～さんは、前日の金曜日にも自宅近所の病院で診察を受けていましたが、出された薬を飲んでも改善されず更に症状が悪化したため、土曜日午後診察をしていた違う病院へ行くことになりました。診察の結果、「詳しくはわからないが、ひとまず点滴を」とのことと点滴をしましたが、全く改善されず、逆にひどい痛みと嘔吐があったため、点滴を中断し、墨東病院を紹介して頂きました。

墨東病院では、血液検査・エコーを行いました。軽い貧血・炎症はあるものの、それ以外に特に問題はなく、原因の特定ができないということで、続いてCT検査を行いました。本当は造影剤を入れるはずでしたが、うまく入らなかったようで、造影剤なしの検査になりました。その結果、卵巣に問題があるかもしれないということが判り、今度は、婦人科医師より尿検査・内診などが行われ、その結

果「卵巣が腫れている（通常3cmが10cmに）。ねじれている可能性もある。あまりよい状況ではないので、緊急ではないが、様子を見て手術が必要」との結果に至りました。そして、7日月曜日に、もっと詳しいことを調べるために、検査を予約して頂きました。また抗生剤などの薬や痛み止めも処方されました。

病院は非常に混んでおり、ひっきりなしに患者が来るため、検査結果を待つ時間も長くなり、私ที่บ้านに着いたのは、深夜1時を過ぎていました。

<留学生の家族（母子）に付き添い幼稚園で通訳・書類記入などでサポートした報告>

※ 支援内容

- 園長からの教育方針・指導の重点・入園前留意事項などの説明
- 主任教諭からの入園関係書類の記入要領と購入・作成すべき衣服・用具の説明
- 地元郵便局長からの郵貯講座開設や自働引落とし申請要領の説明
- 制服・制帽などの採寸と注文

※ 感想など

幼稚園に到着し受付の列に並んでいる時に、～くんは、すぐに幼稚園の遊具で遊び始め、大きな滑り台が気に入った様子だった。



入園サポート

手続き後は、親と別れ子供だけで友達や先生と遊ぶ部屋が設けられており、～くんを連れていったが、少しするとお母さんのところへ戻ってきてしまった。少し心細かった様子だったが、お母さんが一緒に部屋まで連れていき、何度も母国語で説明したところ納得した様子で中に入って行った。やはり、いつも家族だけで過ごしていただけに、最初だけであると思うが、戸惑いがあるようだった。これから入園までにまだ何度か幼稚園を訪れる機会があるので、徐々に幼稚園に慣れていってくれると思う。

幼稚園の用具については、帰国する家族から全て譲り受けることになっているため、学年によって色が異なるカラー帽子と名札のみを注文した。お弁当箱や上履きについても詳しくお話があったため、ポイントを説明した。

(留学生支援担当コーディネーター 田中 武夫^{たなか たけお})

東京国際交流館 春の新人入館者歓迎バザー

5月28日（土）に、ABICの留学生支援活動の拠点であるお台場の東京国際交流会館で、新しく入館した留学生とその家族の便宜を図るため春のバザーが開催された。

このバザーの運営には、同館に在住の日本人学生や、交流館職員、およびABICの会員がそれぞれの役割を分担し参加した。

今年の春のバザーは福島原子力発電所の事故による多くの入館者の帰国や一時退去、更に新規入館者の減少があり一時は開催を危ぶまれたが、関係者の努力とこの催しを次に来る人達には是非バトンタッチしたいという入館生の思い、そして支援企業とその社員の方々、日本貿易会職員やABIC会員からの熱い応援により無事開催に漕ぎ着けた。

当日は異例の梅雨の早期突入により雨天となったが、館内のスペースを無駄なく活用し、提供頂いた品物を濡らすことなく展示できた。また、外国人留学生とその家族によるお国自慢のファーストフード店や、子供の折り紙教室もキャンプ用テントを使い実施できた。

夕方からは入館生の楽器演奏、歌、曲技、ビンゴゲーム、それに沖縄民謡と舞踏の演奏があり、晴れの日とはまた一

味違う、しっとりとした落ち着きの中にお互いが親しみを感じる一日であった。

バザーでは、多くの企業とその社員の方々、貿易会職員やABIC会員からの260箱に及ぶ物品の寄贈を頂き、売上は30万円に達し、昨年並びに一昨年の春バザーを超える金額となった。

この売上金は従来通り交流館の留学生イベント支援等に充当される。ご支援頂きました皆様には厚く感謝申し上げます。

(留学生支援担当コーディネーター 鍛形 勲^{くわがた いさお})



私の ボランティア活動

地元で日本語指導と里山の手入れ

すずき けんじろう (元 住友商事)
鈴木 謙二郎

しいて私のボランティア活動を挙げるとすれば、二つの分野があります。日本語の指導と里山の手入れです。どちらもその意義などを云々するより、とにかく楽しいから続けているというのが実情です。以下に概略をご説明します。

1. 日本語指導

現在、ABICの「日本語広場」の講師として、東京国際交流館の入居者のうち日本語学習を希望する人達に日本語の手ほどきをしています（月曜日・初級Ⅱクラス担当）。この活動に関しては、以前の本誌で既に紹介されていますので割愛し、別のボランティア教室への参加について触れてみます。

私の住む狭山市に狭山市国際交流協会という市の外郭団体があり、市の施設で日本語教室を開催しています。実際の運営は地域のボランティアが当たっており、私も日曜教室のスタッフとして参加しています。

地元ホンダの狭山工場があり、関連産業が集中している関係で外国人居住者が多く、日本語学習のニーズが高いです。一口に外国人と言っても南米の日系人労働者、日本の駐在員と結婚した中国人やフィリピン人の女性、東南アジアからの技術研修生などさまざまなグループがあります。

指導はマンツーマンを基本としています。私の場合テキストも使いますが、相手のレベルに合わせてできるだけ話し相手を務めるよう心がけています。

教室では言葉の指導のほか、盆踊り、公園市民祭、いも掘り大会など地域のイベントにも参加し、スタッフも生徒とともに楽しんでいます。

目下の教室の悩みは、不況の影響による生徒数の落ち込み（現在の参加者数約10人/日）と、個々の生徒の気

まぐれで出席の顔ぶれが一定しないことの二つです。

それでも、商店街や電車の中などで突然声をかけてきた人が、だいぶ以前に指導した生徒で、こちらを忘れずに感謝の言葉をくれた時など、この活動をしていてよかったとの感慨がわきます。

2. 里山手入れ

我家の近所に散在する雑木林を手入れする会「おおたかの森トラスト」の活動に週一回参加しています。かつて武蔵野のいたる所に雑木林があり、農家の薪炭採取や落葉による堆肥造りに不可欠のものでしたが、今は宅地造成や作業場用地として伐採が進み、徐々に減少しています。また、残存する林も手入れが行き届かないため藪化が進行しています。「おおたかの森」は地主の同意のもとに林の手入れ・再生に努め、椎茸や木炭などの生産物の売却により僅かながら自前の林の保有も進めています。

作業は季節に応じて、古木・倒木の伐採、伐採材の利用（椎茸栽培や炭焼き）、苗木育成・植林、下草刈りといろいろですが、総じて全くの力仕事です。チェーンソーの使い方、古木の伐採要領、炭焼き窯の扱い方、植物の見分け方などそれぞれ達人がいるもので、こうした人達の指導を受けながら見様見真似でやっています。今年の冬は主に炭焼き窯の窯焚きを担当しました。

夏は下着まで汗まみれ、冬は炭窯の手入れで灰まみれで洗濯物が増え、妻にはあまりいい顔をされません。それでも四方山の話をしながらか座になって食べる昼飯の握り飯や、ほどよく疲れて帰って飲むビールの味が格別でやめられません。体の動く限りは続けるつもりです。



狭山市国際交流協会日本語教室のベトナム研修生の送別会 公民館にて 後列3人目が筆者



狭山市主催七夕祭りに参加 後列左から4人目が筆者（首にタオルをかけている）

会員入会のお願ひ

国際社会貢献センター（ABIC）の活動にご賛同頂き、会員として資金的援助をしていただける個人の方や企業、団体のご入会をお願い申し上げます。

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 （理事会の承認を得て入会）	法人及び団体 一口 50,000円
		個人 一口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める個人、法人及び団体。	法人及び団体 一口 10,000円
		個人 一口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 — —

正会員

団体・法人（17社）〈社名五十音順〉〈10口〉（社）日本貿易会 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株) 〈4口〉(株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 阪和興業(株) 〈1口〉 協同木材貿易(株) 興和(株) JFE商事ホールディングス(株) 蝶理(株)

個人（9名）〈入会順・敬称略〉 池上 久雄 寺島 實郎 小島 順彦 宮原 賢次 吉田 靖男
岡 素之 佐々木 幹夫 勝俣 宣夫〈3口〉 小林 栄三

賛助会員

法人（3社） (社名五十音順)

(有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ キーリサーチネット(株)

個人（435名）

下記は2011年3月以降にお申し込み頂いた方です。ご協力に深謝申し上げます。 (敬称略・氏名五十音順)

〈1口〉 中村 静雄 松岡 鉄

活動会員 2,121名

(2011年5月末現在)

東日本大震災被災地支援活動への協力お願い

ABIC事務局では3月11日に発生しました東日本大震災による被災地支援活動として義援金・支援金寄付口座の案内をしております。引き続きご協力宜しくお願い致します。

詳しい手続きについては以下中央共同募金会のホームページ或いは各地方自治体のホームページにてご確認ください。

<http://akaihane.or.jp>

また会員の皆様が被災地の復旧・復興支援に参加できるよう、関連機関・団体との連携を取っております。これまでも会員の方には支援物資梱包作業などに参加頂いておりますが、今後も活動機会をメールにて案内しますので、ご希望される方は参加申込み頂くようお願い申し上げます。

(参加希望者が多数の場合には先着順或いは人数を限定させて頂く場合もございますので予めご了承下さい)